

第3回中心市街地拠点施設整備基本計画策定委員会 会議録

■日時：平成29年3月27日（月）午後5：00～午後7：00

■場所：四日市商工会議所 3階大会議室

■出席者：

奥野信宏委員長、有賀隆委員、伊藤美香委員、岡田邦彦委員、岡田博子委員、小川泰雪委員、種橋潤治委員、中井孝幸委員、野村愛一郎委員、福永智子委員、藤井信雄委員、葛西文雄委員、森智広市長

■議事：

- 1 4つの導入機能についての基本方針の設定
 - 新図書館の基本方針についての報告
 - 施設全体の方針・4つの導入機能についての基本方針
- 2 施設・空間構成の考え方
- 3 交通アクセスの検討
- 4 市民意見の反映について
- 5 その他

■市長挨拶

- ・昨年12月に市長に就任して3か月経ったが、この会は就任後初めて開催されるということで本日参加させていただいた。人口減少社会において選ばれる都市、31万人元気都市四日市、子育てするなら四日市、教育するなら四日市というスローガンを掲げて市政に取り組んでいきたい。2027年に東京～名古屋間にリニア中央新幹線が開通する予定で、本市では名古屋までのアクセスを改善し、近鉄四日市駅、JR四日市駅の駅前広場を整備することを掲げている。国の補助金を使い、立地適正化計画の策定も行っていきたい。
- ・新しい拠点施設は、中心市街地の核になることは間違いない。今回の施設は市民からも注目度が高い。その中で、私の考えとしてお伝えしたいのが、しっかりとした図書館をつくっていきながら、いかに中心市街地活性化に寄与していけるかという視点である。四日市市民が必要とする新しい図書館像を作って、それをいかにまちづくりに活かしていくかが大切である。
- ・期待の大きい複合施設であり、慎重に議論を重ねていきたい。また、これからの話として、市民の意見をしっかりと取り入れていきたい。9月に基本計画を作成したうえで、その計画を多くの市民のみなさんの意見を聞いてどのように判断するのかということにも重きを置いていきたい。いたずらにスケジュールを伸ばすわけではないが、議論をする時間をしっかりと設けて進めていきたい。
- ・本日は最後まで在席させていただきたい。

■内容

- 1 4つの導入機能についての基本方針の設定
 - 図書館専門部会からの「新図書館の基本方針（素案）」についての報告
- 資料に基づき事務局が説明。

<意見交換>

委員長

- ・3回行われた図書館専門部会に出られた委員のみなさんに、ご感想などを順にお伺いしたい。

E 委員

- ・様々な人達が交流する施設ということを考えると、会話なくしては交流できないわけで、会話を許容できる空間と、従来のような静かな環境の空間とをゾーニングする必要がある。今まで図書館に来られなかった人達のためにも敷居を下げ、その一方で専門的な司書がいる場所にしていきたいと申し上げてきた。

委員長

- ・先生が申し上げたのは、最近の大学では、学生達が集まってお菓子をつまんだりしておしゃべりしながら学習するスタイルが流行っている。

E 委員

- ・ラーニング・commonsのスタイルだと思う。図書館は、かつては個人で使っていたが、家族や友達などグループで使うようになってきている。

C 委員

- ・主に子どもの読書活動の点からご意見を申し上げてきた。イメージとしては、子どもを連れてご家族の方にも来てもらえるような図書館にしていきたいと思う。従来の図書館は子育て中の家族では行きにくかったが、新しい図書館では若干声がしてもかまわないという空間を確保したい。図書館の敷居を低くし、多くの人に利用していただきたい。
- ・人の力が大事で、四日市の図書館では司書が充実している。一部を業務委託にするのはいいが、指定管理者制度を使って民間にすべて委託するのはもったいないと思う。

A 委員

- ・専門部会の司会をさせていただく中で、図書館本来の使命や機能について十分議論していただける場になるように務めた。フリートークに始まり、ソフト面、ハード面、基本理念、重点方針などをしっかりとたどって新図書館の基本方針としてまとめさせていただいた。
- ・議論を重ねる中で、私たちはこう考えるがもっと多くの市民の方の意見を聴きたいというご意見が何度も出てきた。

J 委員

- ・民間でこどものまち図書館を運営している。今の図書館が昭和48年に建設され、当時としては素晴らしい図書館であったと聞いており、今の図書館のいいところをそのまま引き継ぎ、四日市らしさを発揮する新しい図書館にしていきたい。資料について1つお聞きしたいのが、これまでの専門部会の中でも教育長や図書館長から受けた説明で、市民の意見を聞く場を何度も設けたりして方針を固めてきたということは理解できた。改めて市民意見の反映についてお聞きするが、誰がどのように意見を絞り込んで決めていくのか、資料を作成されたのが教育委員会の方なのでそこで決められるのかもしれないが、そのあたりはどうなのか。

事務局

- ・今のご質問は、後の議題の時に説明させていただきたい。

H 委員

- ・市民、利用者の代表としてご意見を申し上げてきた。現図書館を身近に感じており、今の図書館のよいところを活かしつつ市民の思いが伝わり、四日市の教育施設の一つとしてよい図書館になるようにと考えている。専門部会の資料は、中井委員、福永委員に教えていただきながら、私達の意見も盛り込んでよいものになったと思っており、その内容が策定委員会の中でも活かして実現するかをこれから見届けていきたい。本日の資料では、まだいくつか気がかりな点があってそれらについてご発言したい。

委員長

- ・今のご意見に関して、ご質問などがあればお伺いしたい。

F 委員

- ・中心市街地の経済価値が高いところを有効活用する観点から、資料の中で「蔵書のすべてを新図書館の中に収納のうえ」と書かれているが、利用頻度の低い蔵書まで収納する必要はあるのかについて、個人的には若干疑問に思っている。

H 委員

- ・以前のこの会議でもお答えしたと思うが、利用者としては閉架の蔵書であってもすぐに出していただきたいが、今の図書館ではスペースがなく一部の蔵書が別の所にあり、その図書を申し込むと一週間後になるらしく、二度手間となっている。新しい施設では蔵書を一か所に集めて、市民の不便にならないようにするのが当然だと思う。

委員長

- ・蔵書スペースのことは、後の議題の時にご発言いただければと思う。他の図書館でも蔵書が徐々に増えていき、いずれは蔵書の一部を減らすことも考えなければならないと思う。

K 委員

- ・新しい図書館では、地域資料の蔵書を充実させアーカイブされることが重要でその点は書かれているが、その上でご質問をしたい。博物館、すわ公園交流館など地域資料のアーカイブ拠点が市内に幾つかある中で、都市の中での役割分担についてどの程度まで議論されたのかをお聞きしたい。

E 委員

- ・具体的な議論まではなかなかできなかったが、MLA 連携といわれる中で博物館などとも連携していくべきだという意見は出ていた。例えば、図書館にあるものを博物館で紹介したり、博物館と図書館が連携して同時に企画をするなど、デジタルもアナログも上手に使って連携してやっていこうという話は出ていたと思う。地域資料を残していくことはこれらの文化施設の大切な役割であり、それぞれ役割分担をしつつ連携しながら取り組むべきソフト面での内容だと思う。

C 委員

- ・専門部会では深くは議論されていないが、一般的に、図書館と似た施設で博物館と文書館というのがある。博物館は古い現物資料を保存・展示する所で、図書館と文書館は記録されたものを扱う所。その違いとしては、文書館が扱うのは作家の作品などの一点物で、図書館はたくさん発行された図書や行政資料を扱う。それぞれの役割を果たす必要がある。

1 4つの導入機能についての基本方針の設定

○施設全体の方針・4つの導入機能についての基本方針

2 施設・空間構成の考え方

資料に基づき事務局が説明。

<意見交換>

委員長

- ・最初に、先ほどご質問が出てきた蔵書スペースや東側広場の考え方について、ご説明をいただきたい。

事務局

- ・蔵書については、図書館専門部会において80～90万冊とするべきとご意見をいただいております、自動書庫を設置しようとする与此れくらいの規模になる。これからコスト面などの検討が必要になってくるが、まずは現段階で建物の上層階に設置する案とし、計画敷地においてスペースに収められることをお示したものとご理解いただきたい。

委員長

- ・将来このくらいの蔵書数になるという想定で作られたのか。

事務局

- ・現状は40数万冊で、年次的に計画をして図書を揃えていくことで、このくらいの蔵書数にしていくことになると思う。

委員長

- ・その間に図書や資料のデジタル化などの動きも起こってくるかもしれないが、デジタル化については現段階ではコストが高いという課題もある。

E 委員

- ・今回の施設は中央図書館なので、その役割としては資料の収集と保存がメインの役割になる。これが地域図書館、分館であればそこまで必要はない。

H 委員

- ・南海トラフ等の巨大地震の津波や洪水について、計画敷地ではどのくらいの被害が予測されるのか。

事務局

- ・津波であれば数10cmだが、三滝川が氾濫する大水害の場合の浸水予想は1～2mとされている。臨海部にある堅固な鉄筋コンクリートなどの建物について津波避難ビルとして指定しており、それらの建物の3階以上を避難場所としている。市民の方々には、災害時にはできるだけ近鉄四日市駅より西側に避難し、臨海部に近いなど間に合わない時には堅固な建物の3階以上に避難するようお願いしている。

B 委員

- ・博物館との連携については、文書館としての資料の保存や、一点物の地域資料の保存ということで考えれば、博物館の収蔵スペースにはまだ余裕があり、十分に対応できると思う。
- ・今回の拠点施設の図書館は、中央図書館として位置づけていこうと考えているが、現図書館をよく利用されている方々の意見は、専門部会などを通じ、これまで取り入れてきていると思う。一方で「潜在的な利用者」、例えばビジネスマンが自己実現を図るために利用できる滞在型図書館になれば良いと思っている方もいるし、また、小さいころは親と来ていて、中高生になった子どもたちに対して、今度の新しい図書館はスタジオもあって、友達同士で利用しても面白そうだなと思ってもらうようにするなど、こうした潜在的な利用者を開拓していくという視点も大切だと思う。公共が取り組むには、現在の図書館ができた時のような役割も大切であるし、その一方で、今の時代に合った役割を果たすということも大切だと思う。今までのものを10のまま全て引き継いでいくのか、あるいはそれを7または8くらいまで絞り込みつつ、新しいものもプラスしていくということも検討すべきだと思う。

- ・四日市の住民の中で、桜、保々など市内西部に住んでいる方々はある程度菰野町の図書館も利用し、富田、富洲原に住んでいる方々は桑名市の図書館も利用している。超高齢社会が進んでいる今日は、市町村合併の時代ではなく、広域的に文化施設を利用していく方向が大きな流れとなっている。そこで、図書館の蔵書についても、桑名市や菰野町の図書館とすみ分け、連携をしていくことが、限りある財政の中で今後重要になってくるし、また、そうした方が市民の輪も広がり楽しくなると思う。一例として、今の近鉄四日市駅西側の博物館は、商業施設との複合開発の中で、商業施設が平成3年に先にオープンしたが、博物館はコンセプトを見極めるのに時間がかかり、平成5年に遅れてオープンとなった。そこから20年経ってリニューアルとなり、四日市公害と環境未来館と一体的に進めたことで、相乗効果を生み出している。こうした拠点施設については、色々な機会を上手く捉え、バージョンアップしていけば、良いものが出来上がると思う。
- ・いずれにしても、図書館の蔵書については、単に数を増やすということだけではなく、その中身や利用形態について、もっと皆が楽しくなって、多世代交流の夢のある形に向かっていくにはどうしたら良いのかという議論をさせていただき、色々な考え方の折り合いをつけていく方が良いと思う。1回目、2回目と策定委員会を進めてきて、色々な考え方が並存しているような雰囲気が感じられるが、目的は皆さん同じ方向に向かっているのだから、その中で上手く折り合いをつけていかないと良い施設が出来上がっていかないと、今改めて発言させていただいた。

H 委員

- ・私は図書館利用者の立場で出席し、意見を出させていただいている。図書館にとって何が大事かといえば教育機関の一つであり、本を読むというのが中心であって、交流するというのはその次だと思う。

C 委員

- ・床面積の配分について、数値上では図書館とそれ以外の面積の比率はだいたい2:1だが、イメージだと図書館が6階でそれ以外が2階と3:1ともみえる。資料に書かれている交流共用スペースがわかりにくく、その一部を多世代交流・ワークショップスペース機能を配置することもありうるとは書いてあるが、その他にもエレベーターやトイレなども含まれそうだが、その考え方についてお聞きしたい。

事務局

- ・交流共用スペースには、まず、共用スペースとしてフリースペース・ロビー、階段、エレベーター、トイレなどを配置し、それ以外にも一部は交流スペースの導入を考えている。例えば、上層階は眺望のいい場所になりそうなので「街や港を眺められる空間」を配置し、図書館以外の人にも利用していただき、場合によってはここに飲食スペースを持ってきてもいいと思う。その他の階にも一部交流機能を持ってこられればと思っている。

C 委員

- ・一番上に自動書庫があるのは、出納については機械で下のフロアに下ろせるのかもしれないが、重たい本が建物の上にあるという配置になり、神戸の地震の時にも建物のバランスが問題になったと思うが実際にどうなのか。この点は建築の専門家ではないのでよくわからないが、低中層階の細長いスペースに書庫を配置してもいいと思うが、そのあたりはどうなのか。

事務局

- ・上の方に荷重の重いものが来ると、ある程度の柱の補強が必要な場合はあると思うが、技術的には問題ない。今回の提案については、図書館専門部会の中でワンフロアを広いものになりたいということ、また閉架書庫は自動書庫にするという議論があり、それを実現しようとするため一旦はまとめて上層階に持っていくことで整理させていただいた。

K 委員

- ・先ほど、E 委員からもご発言があったように、多様な利用者を発掘していくという視点が重要だと思う。今の図面はかなり単純化して書かれた模式図である。この中にはおそらく会話が中心のスペース、静かなスペース、その間の中間的、バッファ的なスペースも含まれてくると思う。滞在型図書館と、交流共用スペースについては、まちなかで積層して建物を構築していくのが絶対的な条件の中で、積み方のパターンはバリエーションを増やして検討することは可能だと思う。
- ・建築的な構造の考え方については幾つかあり、免震構造などの場合には浸水があった時には水の浮力は結構あって重たい建物でも安定するというのがある。また、今回のイメージ図のように、高層の建物の場合に最上階に重りを付けて地震の振動とずらすことで揺れを少なくし安定させる制振という構造もある。
- ・ポイントとなるのは、人がメインのスペース、閉架書架など資料のためのスペース、閲覧スペースなど人と資料が同居するスペースをどのように配分するかが次回の話題になると思う。
- ・先ほど、図書館については市の直轄館であるべきというご意見が出ていたかと思うが、それ以外のスペースも含めた運営については直轄以外の考え方もあると思う。中心市街地にある公共財として、例えば中央通りなどの道路空間や公園空間を活用してどのようなサービスを付加していくか、今までなかったようなサービス提供をどれだけ盛り込めるかがもう一つの課題であると思う。いずれにしても、全てが直轄なのかはこれから議論をするべきだと思う。

委員長

- ・近年、民間事業者などが行政にかかわって公共になり、サービスの提供を担うという動きが出てきている。地域によっていろんな解釈はあるが、これから検討していくべき課題だと思う。

市長

- ・施設を設置する側の意見として、積層の建物のメリットとして最上階は伊勢湾を眺められる。図書館の議論とは違うが、資産価値は上層階に行くほど高まるのでそこを閉架書庫にするのはもったいないという考えもある。

事務局

- ・先ほどの繰り返しになるが、今回提出したイメージ図では、図書館専門部会からの意見としてワンフロアを広くとるというのがあって、それに対応するために自動書庫を上の方に配置した。一方、図書館としてはワンフロアが狭くなるかもしれないが、例えば3階から5階あたりの低中層階に自動書庫を持ってくるという考え方もありうると思う。先ほどご指摘があったように、建築の配置については検討の余地があり、いろんなバリエーションを考えていきたい。

J 委員

- ・先ほど B 委員のご意見で、市内西部の人は菰野町の図書館を使い、北部の人は桑名市の図書館を使ってもいいというのがあったが、私は四日市市全体に図書館サービスを提供するシステムの構築が重要だと思う。その1つとして、移動図書館の発着所をこの施設で設ける可能性については、図書館専門部会でも申し上げたが、引き続き議論していただきたいと思う。

B 委員

- ・先ほどの私の意見の趣旨は、菰野町や桑名市の図書館を四日市市民も利用している実態がある中で、上手に連携してダブることはやめた方がいいのではないかとこのものである。市内西部や北部の市民が全て菰野町や桑名市の図書館に行けばいいということではなく、うまく連携してみんなが Win-Win になっていけばいいという発想である。

委員長

- ・広域連携は現在行政としては大きなテーマとなっている。例えば、一部事務組合のような形態もあるが、そこまで行くと実際には難しいテーマではあると思う。

3 交通アクセスの検討

資料に基づき事務局が説明。

<意見交換>

奥野委員長

- ・今の説明について、ご質問があればお伺いしたい。

H 委員

- ・駐車場について、台数が足りず、周辺の民間駐車場とも連携する必要があることもよく分かった。2～3 時間の無料駐車券を発行するという点について、財源はしっかりと考えているのか。単純な計算では1,500 万円くらいかかり、現状の本の購入費 3,000 万円が削られるのではないかという心配がある。本町プラザの横の駐車場も取り壊されてしまう方向だそうだが、その理由は人件費などでお金がかかることと聞いている。当初は駐車券を出すとしていても、将来は財源が少なくなつて駐車券発行分の予算を削るといふことにもなりかねない。駐車場についてもっと抜本的に検討していただきたい。

事務局

- ・これはまさにコストの問題で、駐車場を別途建設する経費と、空いているスペースを有効活用する経費とではどちらの方が費用対効果があるかという点がポイントだと思う。まずは市営中央駐車場とくすの木パーキングがメインの駐車場である。中央駐車場について、休日は市役所が閉庁していて拠点施設利用者が丸々使えるためあまり心配はしていないが、平日、特に昼間は、市役所や総合会館などの利用者もいるため、総合会館などでの検診やイベント等と重なる場合には周辺の民間駐車場を利用していただくことになると思う。

H 委員

- ・中央駐車場について、休日は何台駐車できるのか。

事務局

- ・中央駐車場については、全体で 412 台の容量があるが、そのうち約 250 台分は公用車分であり、拠点施設利用者は残りの 165 台分を使うことができる。

H 委員

- ・ピーク時は休日だと思うが、ピーク時に 365 台になると予測されていて、そのうち 165 台分しか中央駐車場は使えないということか。

事務局

- ・そのとおりで、ピーク時には、くすの木パーキングや周辺の民間駐車場も使ってもらうことを考えている。

H 委員

- ・先ほどの事務局のご説明で、休日はあまり心配していないと言われていたと思うが、休日の利用はかなり多くなると思う。

事務局

- ・現図書館の駐車場の状況からすれば、休日に中央駐車場の 165 台分が使えるということは、現状の駐車場より大幅に増えるということである。さらに、需要予測によりピーク時を 365 台と想定したが、これは複合施設として対応できるよう余裕をもって算出しており、常時、図書館利用者だけでそこまでの数には至らないと考えている。駐車場の需要について中心市街地内で対応できないとなれば問題だが、中心市街地内の駐車場ストックで十分対応できると考えている。

委員長

- ・駐車場の考え方は整理されてきているであろうが、一方で、公共交通の考え方の書き込みが少ないと思う。

E 委員

- ・駐車場の需要予測については私も関わったので補足をすると、人口当たり何冊借りるかを示す「貸出密度」という指標があり、文部科学省が出している望ましい基準という物の中で、全国の図書館で 30 万人都市のトップテンの平均値が 10 冊／人と出されている。現状はこの数値よりもっと低いが、せっきく新しい図書館をつくるため目標としてこのくらいは目指そうということである。そのため、このくらいの人達に来てもらわなくてはならないという点から、1 年間を 52 週として割って逆算している。また余裕率を 1.2 としているが、全国の駅前で図書館を含む複合施設を調査した時に複合施設全体の利用者のうち 80%が図書館利用者で残りの 20%がその他の施設利用者という結果となり、このような過去の経験から算出根拠とした。
- ・資料について 2 点申し上げたい。1 点目は交通弱者の方々の利用について、先ほど移動図書館の話が出ていたがこれが 1 つ、さらに全国の図書館では学校の図書室を地域に開放して、中学校区ごとに土日だけ司書を派遣して図書を貸し出すという事例もある。また、先ほど副市長から意見が出ていたように広域連携によるすみ分けも必要に応じて検討することも考えられる。もう 1 つは、四日市の特色ということでいえば今回はビジネス支援という文言は入っていないが、コンビナートをはじめ企業が多いということを見ると、そういったものも資料を収集してもいいと思う。今後検討を深めていただきたい。

4 市民意見の反映について

資料に基づき事務局が説明。

<意見交換>

事務局

- ・先ほど、J 委員から市民の意見の反映をどのようにするのかというご質問があったと思うが、市民のみなさまの様々な意見は我々の方で集約してこの委員会にもご報告し、その上で反映できる意見は反映し、反映できない場合はその理由も含めてお示しするなどして、計画づくりを進めていきたい。

J 委員

- ・反映できる意見とそうでない意見についてご説明があったが、それを決めるのは政策推進部か、教育委員会か。

事務局

- ・図書館のソフト面については、図書館の方で十分に検討し判断してもらう。一方、ハード面については、政策推進部を中心に各部局と調整して判断をする。

H 委員

- ・今のご質問に関連して、ソフト面は図書館の方で検討するということだったと思うが、市民から様々な意見が出てきた後に情報を集約し、その後に図書館に関する意見については、再び専門部会を開いて検討を継続していくというお考えはあるのか。

委員長

- ・図書館部会の位置付けなど、ご説明をお願いしたい。

事務局

- ・今のところ、この策定委員会の場にお示しする予定としているが、図書館専門部会を開いてお示しするところまでは考えていない。
- ・先ほどの説明について補足をする、図書館のことについては図書館が中心になって検討するが、ハード面などそれ以外の部分についての検討は、市役所内に関係部局のプロジェクトチームを設置しており、庁内で情報共有しながら判断していく。

B 委員

- ・この策定委員会で基本計画に対する提案をまとめていただいた後に、市がその内容を整理しつつ、その中で市民の意見を最大公約数的に反映した上で計画の最終案を取りまとめ、議会に報告し意見を頂く。予算の提案権は市にあり、決定権は議会にある。策定委員会でまとめていただいた提案は全てが反映されるのではなく、事務局が先ほど申し上げたように庁内にプロジェクトチームを設置しており、各部局の代表がそれぞれの立場から検討を加えて咀嚼し、現実的な提案にまとめていく。手間がかかっているが、シンプルな決定のプロセスであると思う。あくまで、意見を集約するのはこの策定委員会であるということ、ご理解いただきたい。

I 委員

- ・蔵書の量については資料の中でも整理されているが、蔵書の質、カテゴリーについてはあまり検討されていないと思う。子ども向けの読書については、幼児の時から読書、あるいは読書しない中高生向けの取り組みなど現在の活動の中で重要な視点で充実させていくべきだと思うが、一方で忘れられている視点が高齢者の読書である。認知症と読書の関係が最近話題になっているが、生涯学習と読書の関係で本を読み、自分が読んだ内容を人に話す、あるいは人が読んだ内容を聞く、そのことによって前頭葉が活性化し認知症予防に効果がある。そのあたり専門的な視点で検討してもらう必要があり、現図書館のヘビーユーザーの意見を反映するのは結構だが、それだけだとバランスに失うと思う。

委員長

- ・蔵書の質については、どのようにお考えか。

事務局

- ・蔵書の質についてこの場で議論するという考えはなかった。ご意見をいただいたので、今後の策定委員会の中で方向性について検討できればと思う。

B 委員

- ・事務局の方で先進的な図書館における蔵書の量と質を調べて、資料として出すべきだと思う。

H 委員

- ・蔵書の質は、司書の質にかかっていると思う。司書の充実が蔵書の充実につながるということを申し上げておきたい。

委員長

- ・これらは図書館のソフト面に関わる部分で、現段階では簡単に整理することはできないと思うが、事務局の方で研究していただきたい。

F 委員

- ・先ほどご意見があった連携に関して、図書館の関係で四日市大学との連携についてご検討いただければと思う。

D 委員

- ・調べものをする時に、最近はスマホを使う。その傾向からすれば、蔵書について、冒頭に意見が出た蔵書の利用頻度や効率性の問題や、あるいは菰野町や桑名市の図書館との地域間連携やすみわけを議論すればいいと思う。蔵書を全て揃えればいいというのではなく、適正規模として揃えればいいと個人的には感じている。
- ・駐車場については、イベントとの関連でいえば、大四日市まつりとエキサイト四日市・バザールくらいで、それ以外で中央通りや三滝通りに面してイベントが行われることは少ない。この施設ができた時に関連イベントをどのように持ってくるのかを考えておくべき。また、これらのイベント当日は交通規制が行われ、駐車場へのアクセスなどが影響を受けるため、そのことも検討する必要がある。また、駐車場について、個人的な感覚では需要想定に対して足りていないと思う。この場所に拠点施設を建てるのであれば駐車場については、公共交通の使い方なども併せて、覚悟を持って検討、提示していくべきだと思う。

委員長

- ・時間が来たので、本日の意見を事務局の方で整理し、次回の委員会の検討に加えていただきたい。最後に市長からご挨拶をいただければと思う。

市長

- ・初めてこの委員会に参加し、建設的な議論がされていると感じた。中心市街地内の拠点となるため市民の理解が得られ、これからの四日市を引っ張っていく施設にしていくべきであり、議論を重ねていきたい。色々な意見や考え方の全てを取り入れてまとめることは難しいかもしれないが、31万人の最大公約数を目指して検討を進めていただきたい。

5 その他

次回の日程調整は、事務局より後日行う。